

乾田直播栽培で冷害が回避できるか

福島県農業総合センター 浜地域研究所
平成16～17年度農業試験場試験成績概要
平成18年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

水稲 - 水稲 - 水稲直播、気象解析
分類コード 01-01-75310000

2 担当者

木田義信、大谷裕行、佐々木園子

3 要旨

乾田直播栽培生育モデルを用い、過去の冷害年(1980、1981、1988、1993、2003年)で冷害が回避できるかを検討した。

- (1) 播種期を4月1日～5月11日とした「あきたこまち」の障害不稔のシミュレーションでは、1980年の4月1日播種や2003年の5月11日播種で障害不稔が発生するものの、これ以外の場合は障害不稔が発生しないという結果から、障害型冷害にはなりにくいと考えられた。
- (2) 同様に「ひとめぼれ」の障害不稔のシミュレーションでは、過去の冷害年で障害不稔は発生しないという結果から、障害型冷害にはならないと考えられた。
- (3) 播種期を4月1日～5月11日とした「あきたこまち」で出穂遅延による登熟不良をシミュレーションを行った結果、登熟不良とならなかったのは、1988年では5月2日、2003年では5月5日までの播種であった。しかし、それ以外の年では4月1日播種でも出穂が遅れ登熟不良になるという結果から、遅延型冷害になりやすいと考えられた。
- (4) 同様に「ひとめぼれ」で出穂遅延による登熟不良をシミュレーションを行った結果、登熟不良とならなかったのは、2003年の4月17日までの播種だけであった。しかし、それ以外の年では4月1日播種でも出穂が遅れ登熟不良になるという結果から、遅延型冷害になりやすいと考えられた。

4 その他の資料等

なし